

実りある学舎を開催しました！

物流を支える港湾施設の多くは高度経済成長期に集中的に整備され、現在、係留施設の3割が建設後50年以上経過しており、10年後には6割と急増することが予測されています。今後、維持管理・更新費用の急激な増加が懸念され、更新費用の縮減・平準化には施設に必要とされる性能を適切に維持するための点検診断が不可欠です。

一方、少子高齢化に伴う厳しい財政制約の中、社会インフラ整備への投資は限られており、点検診断の実施が困難な状況で、課題となっています。

本講演では、港湾空港技術研究所 構造研究領域 構造研究グループ長 加藤 絵万 氏を講師にお迎えし、点検者の安全を確保しながら効率的に部材の変状を把握するための新たな技術と、その活用方法などについて、最近の話題をご提供いただきました。

具体的な事例として、栈橋上部工点検用ROVによるカメラの遠隔操作技術や点検診断支援ソフトによる作図の自動化をご紹介いただきました。また、要望が増えつつあるケーソン式構造物の転用や延命についてもお話しいただきました。



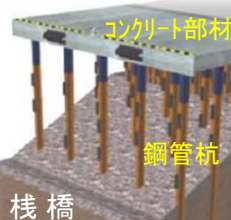
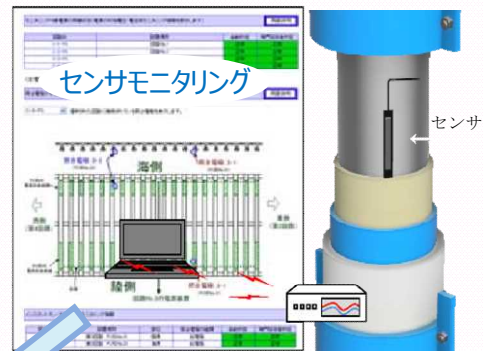
《日 時》 令和2年2月12日(水) 14:00～16:00

《テーマ》 港湾施設の維持管理に関する技術開発

《講 師》 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 構造研究領域
構造研究グループ長 加藤 絵万 氏

点検診断技術の開発・運用

栈橋上部工点検用ROVと
点検診断支援ソフト



点検者の安全を確保しながら
効率的に部材の変状を把握

